

コード No.21-NPF-003

提出日：令和4年5月15日

2021年度「子ども被災者支援基金保養団体支援事業」報告書

一般社団法人子ども被災者支援基金
代表理事 鈴木 理恵

1. プログラムの目的

当基金では、福島をはじめとする放射能被害に苦しむ家庭、子ども達が必要とする保養活動を行う団体（以下保養団体と言います）に対し、資金を援助する形で保養団体を支援する活動をスタートさせました。過去6年間の活動において、保養団体が抱える慢性的な資金不足や人材不足に加え、プログラムの内容についての評価、危機管理の程度、スタッフに対する教育など、自ら作るプログラムの内容の妥当性やレベル感について悩みながら手探りで活動を行っている団体が多い事が分かりました。

しかし、一方で活動そのものに手がかかる、お金がかかることを理由に、自らの活動内容をふり返らず、ただ勢いに任せた活動を行っている団体や、基金の支援に慣れてきた団体も散見されるようになってきました。加えて、昨年度は活動を停止する団体はありませんでしたが、この状況下で続ける意義はどこにあるのか良く見えなくなっている団体も出てきました。

そのため、助成金を通して活動内容の評価や妥当性をチェックしたり、モニタリング等で各団体と密にコミュニケーションを取る事で、様々な面で活動や団体の改善に結びつけ、より良いプログラムの提供が可能となるよう考えております。

しかし新型コロナウイルスが全国的に感染拡大する中、昨年度はすべてのパートナー団体が活動中止に追い込まれ、今年こそは開催したいという意気込みの下、開催を前提として活動を開始した団体が多かったため、プログラム助成よりも感染拡大防止に対する支援を積極的に行う方向性を示し、助成内容もPCR検査などに絞った形で行った。

2. 主な活動内容・スケジュール

4月 5日	パートナー団体の登録について、満足な活動が出来ていないため、現状のまま維持し会費は免除する旨を通知
4月18日	福島の子供達を守る会北海道のトークイベント「共に生きる」に参加
4月21日	第1回運営会議 今年度の活動の進め方について検討
4月28日	各団体へ昨年度のアンケート結果送付
6月 1日	感染防止対策のガイドライン改訂
6月15日	パートナー団体に対し、今夏の開催について動向調査を実施
7月22日	2021年夏助成応募受付開始 感染対策・要配慮者に絞った助成
9月 3日	助成金応募締切 応募団体2団体
10月 7日	夏の助成検討会（オンラインにて開催）
12月18日	保養についての参加者側の意識調査実施
1月10日	保養についての意識調査終了
1月10日	春保養に関する動向調査

- 3月 9日 福島の子も達を守る会北海道から春保養での助成依頼
 3月24日 夏助成と同条件で助成

① パートナー事業

保養プログラムの質の向上を目的に、各保養団体のプログラムの特徴や長所短所を把握すると共に、課題の抽出と解決を図るため、その意思を持つ団体が当団体の支援を優先的に受けられるように、特定の強い関係性を保つようパートナーシップ制度を継続した。今年度は感染防止ガイドラインの改訂のみ、パートナー登録については、前年を維持、まともな活動が出来ていないという事で、会費も免除した。

パートナー登録団体

2016年から継続団体

- ① 吹夢キャンプ 大阪府
- ② ウェルカムかさおか 岡山県
- ③ 関門保養プロジェクト・下関 山口県

計5団体

2017年から継続団体

- ① (特非) 福島の子もたちを守る会北海道 北海道
- ② (特非) ライフケア 福島県
- ③ (特非) 福島こども保養プロジェクト・練馬 東京都
- ④ さよなら原発ママパパ美作ネットワーク 岡山県

計10団体

2018年から継続団体

- ① オアシス in 日高 北海道
- ② 特定非営利活動法人PONTE 福島県
- ③ ふくふくっこ@知多半島 愛知県
- ④ ふくしまっこチャレンジスクール実行委員会 石川県
- ⑤ どんごキャラバン☆たんば 兵庫県

2019年加入団体

- ① 親子わくわくピクニック実行委員会 静岡県
- ② NPO 法人みんな地球の子もじゃん 青森県
- ③ 子ども未来・愛ネットワーク 岡山県

継続団体15団体、新規団体0団体

従来であればモニタリングやその結果のフィードバックなど、パートナー団体とコミュニケーションを密にして交流を深める活動が主となるが、新型コロナウイルスの影響で訪問が行えず、事業らしい事業ができなかった。

そのため、助成検討委員会で意見が出された「保養に対する参加者側の意識調査」をパートナー事業の一環として実施、各パートナー団体に呼びかけ、過去の参加者から意見を聴取した。計55名の率直かつ切実な意見が寄せられた。

② 助成金事業

事業概要:今年度は感染対策緊急補助金、要配慮者参加特別奨励金の2本立てで実施した。前者は感染対策の消耗品、備品、PCR検査に対する費用、後者は従来の要配慮者参加奨励金にコロナ枠を設け、コロナ禍であっても保養に参加したいという世帯を支援する目的とした。

応募団体:夏保養 ライフケア、ウエルカムかさおか
春保養 福島の子ども達を守る会北海道

結果 : 3団体を採択

NPO 法人ライフケア

要配慮者参加特別奨励金 2万円×2名 計40,000円

ウエルカムかさおか

新型コロナ緊急対策補助金

抗原検査キット60セット

+非接触型体温計 1台購入 91,860円

要配慮者参加特別奨励金 2万円×8名 160,000円

合計 251,860円

福島の子ども達を守る会北海道

新型コロナ緊急対策補助金

PCR検査キット46セット

+郵送料 計133,430円

事業を振り返って

今年度も夏場になり新型コロナウイルスの感染が拡大し、開催を前提にしていた団体の多くがやはり中止に追い込まれた。しかし、助成に応募した2団体は強気に開催したいという熱意もあり、特に感染対策には十分な配慮を促す意味も込め、助成を決定した。数少ない参加者だったが、感染拡大することなく無事にプログラムを終えられた事は、本活動の成果と考える。また、時が進み、移動に伴いPCR検査を実施する事への重要性の認知、抵抗感が薄れて来たことで、春保養で守る会北海道から助成の依頼があった。夏助成と同じ条件で、PCR検査に伴う費用を助成し、無事終了できた事は今後の活動のあり方においても大きな成果を残したと思う。

③ 研修事業

事業概要:オンラインによる研修会を検討したが、新型コロナによる中止が相次ぎモチベーションが低下、先が見えない中で研修を行っても参加者が集まりにくいだろうという事で、こちらも企画までで終わってしまった。

3. 助成を受けた活動の報告（様子がわかる写真等があれば貼付してください）



PCR 検査を実施した上での保養活動の様子（福島の子も達を守る家北海道）

4. 活動の成果（成果物などがありましたらご紹介ください）

今年度はなんとか3団体に対し助成が出来た。更に移動に伴い検査を行うという事も浸透しつつあり、今後の保養活動のあり方について、一つの好事例を残すことが出来た。また、過去の参加者に対して行った「保養に対する意識調査」に関して、まだまだ切実なニーズがあると判断できる一方で、複雑化、多様化するニーズや参加者の要望に対し、受入団体がそれらを受け止められるだけの力量があるか、やや疑問に感じる団体も見受けられる。今後の保養活動のあり方について、ニーズと受入団体のバランスを考える良い機会となった。

5. 今後の課題

- **With** コロナの中、どのような形で保養活動を進めるのか
- 保養活動のあり方をもう一度検討
- 当団体の活動についても継続性を検討する必要がある

以上